

平成二十五年度 未来の京都創造研究事業

## 研究だより

第 4 号

本事業は、大学の若手研究者と京都市の担当部署が協力しあって調査・研究を進めることで京都市の政策や事業に生かすことのできる、より実践的な研究成果の獲得を目指して、公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が共同で行っている事業です。

今回の研究だよりは「和装関連市場における新たなセグメントとその特性の分析」に取り組んでおられる研究について内容を報告します。

研究  
テーマ

## 和装関連市場における新たなセグメントとその特性の分析

研究代表者 吉田 満梨 (立命館大学経営学部・准教授)

## 研究概要

かつて二兆円産業と言われた着物関連産業は、購買金額・数量ともに減少を挙げ、二〇一一年の呉服小売市場規模は、約三千億円と推計されています。人々の「着物ばなれ」が言われて久しいですが、そうした市場の縮小は自然に起こった訳ではなく、売上数量の減少を高付加価値化・高価格化で補おうとし、着物業界が使用シーンとターゲットを限定してしまっ

たことに起因する部分も大きいと思います。しかし、こうしたやり

方も限界を迎えた今日、業界は新しいマーケティングに取り組みなければなりません。

本研究は、そのためにも今日の(潜在的な人々も含めた)着物ユーザーのニーズと特性を、消費者調査によって明らかにすることを目的としています。近年の着物ユーザーとそのニーズは、一時代前は変化している可能性がありま

す。今日の20〜40代の女性を見ると、従来の正装としての着物とは異なる位置づけで、着物を愛好する消費者群が存在します。たとえば普段着として紬や綿の着物を愛

用する、洋服にはない色柄に惹かれてアンケート着物を古着感覚で買う、非日常の経験としてイベント時にレンタルの浴衣を纏う、といった消費行動は、それぞれが異なるニーズや、着物の魅力の認識にもとづくものだと考えられます。ただし、こうしたそれぞれの消費者セグメントが持つニーズに対して、多くの和装関連企業は十分な対応ができていないのが実状です。

そこで本研究では、探索的調査としてのインタビューと、質問紙(アンケート)による検証的調査を通じて、今日における着物愛好者の市場セグメントとその特徴を明確化したいと考えます。その結果、今日の着物関連産業における市場変化とそれに伴う市場機会を可視化し、関連事業者や産業界の政策への示唆を導ければと考え

ています。



研究者  
プロフィール



よしだ まり  
吉田 満梨

(立命館大学 経営学部 准教授)

新しい市場が生まれ育っていくプロセスに関心を持ち、それを実現する企業の取り組みである「マーケティング」の研究・教育をしています。近年は特に、ユーザーとの価値共創をテーマに、理論研究と事例研究を行っています。昨年末頃から、自分自身が着物という商品の魅力にはまってしまったことがきっかけとなり、着物関連市場のことも調べ始めました。多くの問題を抱える業界ですが、市場の潜在性は高いと考えており、そのための機会を見出したいと考えています。

進捗状況

(本年7月からこれまでの進捗状況)  
まずは業界の問題構造を整理するために、資料の収集・分析、着物関連事業者の方々に対するヒアリングを実施しました。次に、女性着物愛好者のグループ、エクストリームユーザーへのインタビューを基に、質問紙調査の尺度を検討し、10月20～22日に開催された「きものサローネin日本橋2013」の来場者アンケートとして、予備的調査を実施しました(写真はきものサローネの会場の様子)。



今後の抱負

着物関連市場を再び成長させていくために新たな一歩を踏みだそうとする、着物関連事業者の創造的な行動を後押しするような研究にできればと思います。



編集後記

京都市内においても着物を着る機会がないため、身近に感じることはやや少ないかもしれませんが。初詣、成人式、祇園祭、七五三など限られた日やイベントだけでなく、日常から和装に接することで歴史文化都市・京都の良き伝統をつなぐことができたら、と願っています。

特に若者に期待。本研究では若者たちにこれからもっと着物を着てもらえるような方法を検討します。伝統産業の振興にも貢献できるよう、研究を進めます。

公益財団法人  
大学コンソーシアム京都  
高等教育研究推進事業部  
シンクタンク事業  
TEL : 075-708-5803  
FAX : 075-353-9101  
E-mail  
mirainokyoto@consortium.or.jp

大学コンソーシアム京都 未来の京都

